

古賀市 地震・津波ハザードマップ

古賀市 (平成25年3月作成) **保存版**

非常持出品 災害が発生し避難するときに持ち出すものです。避難しやすいようにできるだけコンパクトにまとめておきましょう。

- 非常食** 保存期間が長く、火を遣さないで食べられるもの
- 携帯ラジオ** FMとAM両方が聞けるもの
- その他** 衣服(防寒着も)、ビニールシート、食器類、生理用品、携帯電話の充電器など
- 飲み水** 薬をのむときにも欠かせません
- 救急薬品・常備薬** 応急手当ができる薬や常備薬など
- 懐中電灯** 予備の電池も用意しましょう
- 貴重品** 現金(硬貨も)、預金通帳、健康保険証、免許証、クレジットカード、印鑑など

非常備蓄品 災害復旧までの数日間の生活に必要なものです。最低でも3日分、できれば5日分を準備しましょう。

非常食 そのまま食べられるか、簡単な調理で済むもの **飲み水** 1人1日3リットルが目安 **生活用品** アウトドア用品などが便利、燃料やコンロなども

家族の連絡先・避難所などを書き込みましょう!

家族・親戚 知人の連絡先	名前	電話番号	名前	電話番号
家族の 緊急用データ	名前	生年月日	血液型	アレルギー・常備薬・持病など
避難所				

古賀市防災メール

登録いただいた携帯電話やパソコンへ防災などの情報をメール配信します。

- 配信する情報**
- 防災……災害時の緊急なお知らせ、気象庁発表の警報など
 - 防犯……不審者情報など
 - 市からのお知らせ……防災行政無線からの放送内容

メール配信登録方法

次のアドレスまたは右のQRコードから空メールを送信してください。登録用サイトのアドレスが添付されたメールが届きますので、必要な情報(お住まいの地域<市内市外>、配信種別)を入力し送信すると登録完了です。

bousai.koga-city@raidan.ktaiwork.jp

※迷惑メール対策等を設定されている方は、ドメイン@ktaiwork.jpからのメール受信を許可してください。詳しくは、携帯電話通信会社のホームページまたはサービスショップにご相談いただくか、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

防災行政無線電話応答サービス

防災行政無線の放送内容を電話で聞くことができます。
☎050-5533-8194 (通話料金は利用者負担となります)

防災情報(インターネット)

- 福岡の災害・防災情報をいつでも調べられます。
- 福岡管区気象台 <http://jma-net.go.jp/fukuoka/>
- 国土交通省 防災情報提供センター <http://www.mlit.go.jp/saigai/bousaijoho/>
- 福岡県防災危機管理局 <http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/>

緊急連絡先 古賀市役所(災害対策本部) … 092-942-1111

- 粕屋北部消防本部 … 092-944-0131
- 古賀交番 … 092-942-2393
- 粕屋警察署 … 092-939-0110
- 青柳交番 … 092-942-2325
- 小野駐在所 … 092-946-3717

災害時の情報伝達先

- 火事・救急は … 119
- 警察は … 110
- 海上での事故・事件は … 118

災害時の声の伝言板 NTT 災害用伝言ダイヤル 171

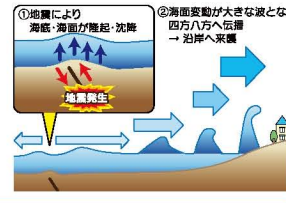
【NTT 災害用伝言ダイヤル】の使い方 詳しくは、<http://ntt.co.jp/saitai/171.html>

- 伝言を登録する場合** (音声案内があります) 電話番号【171】→音声案内に従い ①→092(市外局番)-XXXX-XXXX(被災者の電話番号)
 - 伝言を聞く場合** (音声案内があります) 電話番号【171】→音声案内に従い ②→092(市外局番)-XXXX-XXXX(被災者の電話番号)
- ※伝言の保存期間は録音してから2日(48時間)です。保存期間を経過した時点で自動的に消去されます。

津波災害 押し寄せる津波から、わが身や家族を守るには、避難する以外に方法はありせん。

津波が起こる仕組み

津波とは、海底で発生する地震に伴う海底地盤の隆起・沈降や海底における地滑りなどにより、その周辺の海水が上下に変動することによって引き起こされる非常に大きな波のことをいいます。発生した海面の動き(上下動)が大規模なものであれば、沿岸に達すると破壊力の大きな大津波となります。



津波の特徴

- 地形によって波が高くなる**
波の高さは、海岸の地形に大きく左右されます。三陸海岸やリアス式海岸に多いV字型の湾などでは津波のエネルギーが湾の奥に集中することがあります。東日本大震災では、岩手県大船渡市の雄踏湾で局所的に39.7メートルの浪上高(海岸から内陸へ津波が駆け上がった高さ)が観測されました。
- 深海ではジェット機並みに猛スピード**
津波は、深海ほど早く伝わる性質があり、深海5,000メートルでは時速800キロメートルのジェット機に匹敵する速さで伝わります。水深が浅くなるほどその速度は遅くなります。深さ10メートルの海岸近くでは時速約36キロメートルで、陸上競技短距離選手の走り並みのスピードになります。
- 2度、3度と繰り返す**
津波は、繰り返しやってきます。必ずしも第1波が最大波(津波の高さ)であるとは限らず、東日本大震災でも第2波目が大津波が来たケースが多かったです。
- 沖合いでは津波を感じない**
津波は、波長が非常に長いので、沖合いでは波として認識できないほどです。津波到達時間まで時間的な余裕があるときは、船などで沖合いに出れば津波の被害を回避できる場合もあります。

地球の震からも震ってくる
遠地津波と呼ばれ、日本から遠く離れた南半球のペルーやチリで発生した津波も20時間以上かけて日本を襲います。

津波警報・注意報

気象庁では、東日本大震災の津波による被害をふまえて、津波警報・注意報の発表基準について改善を行いました。地震発生後約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。予想される津波の高さを5段階表記に変更し、また、マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、「巨大」や「高い」という言葉で最初に発表します。

予想される津波の高さ	想定される被害	
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現
大津波警報	10m超(10m<高さ) 10m(5m<高さ≤10m) 5m(3m<高さ≤5m)	巨大
津波警報	3m(1m<高さ≤3m)	高い
津波注意報	1m(20cm<高さ≤1m)	(表記しない)

地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合は、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

津波からの避難 5つのポイント

押し寄せる津波から、わが身や家族を守るには、避難する以外に方法はありせん。どのような場合に避難すればよいか、いざという時にどのような避難行動を取ればよいかを、下記を参考に考えてみてください。

ポイント① 地震の揺れの程度で自己判断しない

揺れがそれほどなくても津波が起こるケースは、過去にもしばしばありました。明治29年の明治三陸地震では、沿岸で震度3だったにもかかわらず、大津波が押し寄せました。津波の危険地域では小さな揺れでも、揺れを感じなくても、まずは避難を最優先すべきです。

ポイント② 「遠く」よりも、「高く」に

すでに浸水が始まってしまった場合などは、思うように避難できないことが予想されます。その場合は、「遠い」よりも「高い」場所、例えば近くの高いビルなどに逃げ込みましょう。

ポイント③ 「津波が来ない」という俗説を信じない

昭和58年の日本海中部地震では、秋田県で海浜に遡進に来ていた小学生らが、津波にさらわれるなどの被害に遭いました。この地震が発生するまでは「日本海では津波はない」という俗説がもっともらしく流布しており、日本海側の住民には津波への警戒が足りなかったと指摘されています。根拠のない俗説を信じるより、気象庁の津波情報に目を傾けましょう。

ポイント④ 避難に車は使わない

原則として、車で避難するのはやめましょう。東日本大震災では、地震直後に車で避難した人が橋が壊れて道路が渋滞してしまい、車ごと津波にのみ込まれて命を落としてしまった人も多かったのです。

ポイント⑤ 引き潮がなくても津波は襲う

津波の前には潮が引くとよく言われますが、前ぶれとして必ず引き潮があるとは限りません。引き潮がなくても、津波が起こることもあります。

津波ハザードマップ

この津波ハザードマップは、平成24年3月に福岡県が作成した「津波に関する防災アセスメント調査報告書」をもとに地図に示したものです。報告書では、対馬海峽東の断層を震源とし、玄界灘が満潮時に地震が発生したと想定した場合、古賀市では最大0.98メートルの津波が予測されています。今回の津波ハザードマップでは、報告書のシミュレーション結果をもとに、「津波危険区域」と「津波避難区域」を指定しています。

- 津波危険区域**…津波で浸水する危険のある区域として、満潮位の海拔1.18mに津波高の0.98mを足し合わせた**海拔2.16m**以下の区域
- 津波避難区域**…津波発生時に避難を必要とする区域として、満潮位の海拔1.18mに津波高の2倍の1.96mを足し合わせた**海拔3.14m**以下の区域

区域内にお住まいの方々は、万が一のために避難が必要となります。近くの安全な場所へ避難するようにしてください。
※津波の規模は様々であり、浸水想定区域から外れている地域においても浸水する可能性があることに注意が必要です。
※「津波危険区域」「津波避難区域」の作成は、福岡県が作成した航空レーザ測量の資料をもとに行っています。

津波対策

外出先にいた
「遠い」ではなく「高い」ところへ避難しましょう。

海辺にいた
揺れを感じたら、津波警報が出ていなくても、一刻も早く海岸を離れて高台に避難しましょう。

川べりにいた
揺れを感じたら、津波警報が出ていなくても、上流へは海水が逆流するおそれがあります。流れに直角な方向に向かってできるだけ遠く高い所へ避難しましょう。

- 凡例**
- 津波危険区域(海拔2.16m以下の区域)
 - 津波避難区域(海拔3.14m以下の区域)
 - 市役所
 - 交番
 - 国道
 - 県道・主要道路
 - JR

